

みんなで育てる福祉のこころ



1人は万人のために 万人は1人のために



第576号

発行日 毎月20日
定価一部 15円※会員の購読料は
会費の中に含む

(一社)佐賀県労働者福祉協議会

佐賀市神野東四丁目7番3号 TEL 0952(32)1243
ホームページアドレス: <http://saga.rofuku.net/>発行人 青柳 直
編集者 江頭 一哉

南部労福協主催

『第6回労働運動・労働者福祉運動の理念・歴史・リーダー養成講座』開催される

8月24日(金)～25日(土)の両日に、大分市「全労済ソレイユ」にて九州管内(沖縄県を含む)から次世代を担う若手の執行部・青年女性部を中心に80名(佐賀より11名)の方に参加いただき、標記講座が開催されました。

本講座は、「労働運動・労働者福祉運動の理念・歴史について理解を深め、職場・地域で運動の継続的な発展を図るため、運動の伝承者となる人材の育成を目指すこと」を目的としています。主催者挨拶では南部労福協佐藤会長より、『平成30年7月豪雨(西日本豪雨)により岡山県・広島県・愛媛県の3県は甚大な被害が発生した。労福協運動として被災地の復興・復旧を継続して支援していく。また、社会全般に関わる課題として「人口減少・年金を含む社会保障制度・格差貧困及び奨学金制度」等、多くの改善を図るべき問題がある。労福協運動として「所得」「時間」「安心」「絆」を如何に働く人へ提供できるか問われている。』主旨の挨拶を述べられました。講座Ⅰでは「労福協の理念と2020年ビジョンの実践とこれから」と題して、中央労福協副会長黒河悟氏より、講座Ⅱでは「人口減少・超少子高齢社会ビジョンの検討委員会最終報告について」と題して、連合総合政策局生活福祉局長伊藤彰久氏より、講座Ⅲでは「消費者問題の過去・現在・未来と課題」と題して、NPO法人大分県消費者問題ネットワーク理事長(弁護士)井田雅貴氏より、講座Ⅳでは「沖縄県労働者福祉基金協会事務局岡野みゆき氏より講義をいただきました。



また、事業体報告として九州労働金庫・沖縄県労働金庫・全労済統括本部から事業体の現状と課題について提案をいただきました。

安心・共生の福祉社会をつくり、持続可能な社会にしていくためには、公助の充実や再配分機能の強化とともに、共助機能の強化がこれまで以上に求められていることを、各ジャンルより事例を交え取り組みの方向性を提案いただきました。

二日間に渡る長丁場でしたが、受講された皆様は講師の方の熱弁を聞き漏らすまいと真剣な表情で聴講されていました。

今後もこのような活動を続け皆さんと共に「労働運動・労働者福祉運動の向上」につなげていきたいと思ひます。

●●●●小城多久地区労福協活動報告●●●●

小城多久地区労福協は、5月28日(月)「小城多久地区労福協委員会(総会)」を開催し、1年間の事業計画などを確認しました。

地区の取り組みとして、7月14日(土)にハーバリウム教室(小城市)を開催しました。30名の参加があり、参加者は講師の説明を聞いたあと、配色等を考えて思い思いに作品を作りました。また、9月29日(土)にはカラーリング大会を開催します。また、昨年好評だった、サガン鳥栖観戦ツアーを11月4日(日)、いごてだま大会を12月1日(土)開催します。こうしたイベントを通して会員の親睦を深め、労福協活動についても頑張っていきたいと思ひます。



熱心に取り組む参加者



作品(ハーバリウム)

違
い
馬
頭

鍋島藩は、徳川幕府から『長崎警備』の重要な任務を担っていたことはご存知と思う。

多額の藩費を費やす任務は、大きな負担であったことは想像に難くないが、天命であり抗えないものであったろう。

だが、長崎に関わるということは西洋技術をいち早く知ることであったし、関わることでできた藩は佐賀と福岡だけだが、両藩では捉え方が違っていたようである。

海外の情報が長崎に入ったとしても、何も感じない佐賀藩ならばごく平凡な一藩でしかなかったろうが、直正公は違った。

ここで思うのは、貪欲なまでの情報収集に対する執念であり、手にした情報はなんとしても生かそうとする知恵と想像力に、卓越したリーダーシップが伺える。

さて、今年は維新150年の節目の年である。

150年の長い時間の流れを見れば、わが国が歩んできた道は『殖産興業』『富国強兵』を追い求め、いち早く近代化を成し遂げ

た面ばかりではなく、史実を丁寧に見る目にも必要である。

過去を遠く忘却の彼方に追いやるのではなく、そこから何を汲み取ってどう生かしていくかが、歴史を俯瞰できるものに求められているはずである。

安倍首相は、戦後レジームからの脱却と言うが、かつて戦場において非業の死に斃れた遺骨はアジア各地に残されたままであり、日本領土であった南樺太には多くの日本人と朝鮮人が取り残され、軍人ではなかった人々が今も戦災の苦しみを負っている現実、いまだ脱却とは言えない。

安倍首相は、『美しい国』と言う言葉を使って、戦後との決別を成し遂げたい意思の持ち主のようだが、後始末もできずにいながら『美しい国』など成立しない。

国家権力の最高の地位にいるものには、最大の情報量と最高の英知が結集されているものと思う。

国家権力はもてあそぶが、その情報と英知を使いこなせないようなら、直正公に使い道を尋ねてはいかがだろうか。

(Y・M)

第15回九州ろうきん佐賀地区NPO助成フォーラムを開催！

九州労金では、社会貢献活動の一環として人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的に、NPOや市民活動団体を対象に助成金の交付を行っています。九州ろうきん全体で1,560万円、佐賀県本部で210万円の助成を毎年行っており、6月8日まで募集を行ったところ、佐賀県内から30団体の応募があり、学識者などによる審査委員会を経て、その内の10団体に対し助成することが決定されました。

8月9日（木）、佐賀市の「グランデはがくれ」において開催された「第15回九州ろうきん佐賀地区NPO助成フォーラム」には、今年度と前年度の助成団体のみなさんや、佐賀県をはじめとする関係諸団体からの来賓など総勢82名が参加いただき、助成金の贈呈が行われました。贈呈を受けた団体からは、「地域社会の活性化、人と人とのつながりの再興を目指して活動してきた。今回の助成金を有効活用し、活動を強化・拡大していきたい」と喜びの声や意気込みなどが述べられ、その後、昨年度の助成団体から助成金を使った活動などについて報告があり、有意義な情報交換の場とすることができました。

九州ろうきんはこの助成制度の他にも、乳がんの早期発見・早期治療の大切さを啓発するピンクリボン運動への支援や、ご希望の金額をお客様の普通預金口座からNPO団体の口座に自動寄付する『NPOサポーターズ』など、お客様とともに社会貢献できる活動を展開しています。今後も引き続きろうきん運動へのご協力をよろしくお願い致します。



生活保護費が3年をかけ10月から最大5%引き下げ！

今年の10月から、生活保護の生活扶助費が3年をかけ段階的に引き下げられる。最大5%もの引き下げが行われ、67%の世帯が減額となる。この見直しで、就学援助、国民健康保険の減免、高校の奨学金、大学等授業料の減免、市営住宅家賃の減免などに影響が出てくる。児童扶養手当を今年8月に拡充したり、生活困窮者自立支援制度の充実の反面で、このようなことが行われている。今後生活保護で生活できないとの相談が増えることが予想される。

ライフサポートセンターは、生活保護・生活困窮や医療・介護も含め多種多様な「なんでも相談」を毎日受けている。生活相

談、労働問題、金銭トラブルなど困った時は一人で悩まずお気軽にご相談を。

また、第3日曜日に開く弁護士による無料法律相談会の日程は下記のとおり。「何でも相談」「法律相談」とも下記フリーダイヤルに連絡を。

 **0120-931-536**

無料法律相談会開催日程（事前予約が必要）

第71回 2018年10月21日(日) 午後1時～4時

第72回 2018年11月18日(日) 午後1時～4時

*12月以降も開催します。

佐賀労済55周年 記念イベントを開催しました

全労済では、2018年度推進活動の一環として、佐賀労済創立55周年（1963年3月23日創立）を契機とする「組合員の拡大」と「もっと全労済を知ってもらう取り組み」を継続的に実施することとしています。なお、2018年7月から8月にかけては、下記2つのイベントを開催しました。

やなせたかしの「メルヘン絵本タペストリー展」を地区イベントとして開催

やなせたかし氏が、晩年、東日本大震災を機に執筆した「やなせたかしのメルヘン絵本」。その貴重な作品の「タペストリー（全労済本部が所有／写真参照）」を、佐賀では初めて県内5会場で展示し、約8千名弱の方々にご覧いただくことができました。各地区推進会議の皆さまの応援について感謝申し上げます。

来場者からは、「ほのぼのとした絵が素敵」「子どもが惹きつけられた」「いい催しだと思う」など、高い評価もいただくことができました。

各会場日程と来場者数 合計来場者数：7,941名

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| ●唐津（7/23～7/29：えきマチー丁目唐津） 175名 | ●武雄（7/30～8/ 5：武雄市子ども図書館） 4,473名 |
| ●鳥栖（8/ 6～8/12：フレスポ鳥栖） 1,693名 | ●佐賀（8/13～8/19：佐賀バルーンミュージアム） 1,006名 |
| ●鹿島（8/20～8/26：ショッピングタウンピオ） 594名 | |



全県イベントとして「家族 de 社会科見学 in 名村造船所」を開催

夏休みの思い出づくりとして、名村造船労働組合・（株）名村造船所の協力を得て家族参加型の社会科見学イベントを、伊万里市黒川町の名村造船所で開催しました。

当日（2018年8月18日（土））は、佐賀・武雄・伊万里発着のバスツアーとして、バス1台分39名の親子に参加いただき、実際に操業中の工場や建造中の大型船をご覧いただくとともに、従業員用の昼食によるランチ会や親子で工作する体験など、貴重な社会科見学が実施できました。

参加者からは、「稼働中の現場は迫力が違う」「子どもが喜びと思い応募したが、大人も非常に勉強になった」「県内にこんなに大規模な造船所があることを子どもに教えてやれて良かった」という声が多く、最後の意見交換タイムでは、子どもたちからの素朴な質問がたくさん寄せられていました。



